

1. 開会（会長あいさつ）	
本日はご多忙の中、お集まりくださいます、ありがとうございます。ただ今より第3回高浜市総合計画審議会を開会する。	

2. 議題	
1) 進捗状況について	
会長	・それでは、議題1「進捗状況」について、事務局より説明をお願いしたい。
事務局	(資料1-1「高浜市の未来を描く市民会議(第3回)報告」、資料1-2「第7次総合計画策定職員チーム会議(第2回)報告」、資料1-3「高浜市の未来を描く市民会議(第4回)報告」に基づき説明。)
会長	・ここまでは報告になるが、何か質問があればお願いします。
	(質問なし)

2) 第7次高浜市総合計画に掲げる将来都市像（キャッチフレーズ）（案）について	
会長	・続きまして、議題2「第7次高浜市総合計画に掲げる将来都市像（キャッチフレーズ）（案）」について、事務局より説明をお願いしたい。
事務局	(資料2「第7次高浜市総合計画に掲げる将来都市像（キャッチフレーズ）について」、資料4「将来都市像（キャッチフレーズ）案の最終検討結果」、別添資料1「キャッチフレーズを考えるときに参考にさせていただく「キーワード」について」、別添資料2「将来都市像（キャッチフレーズ）案について」、別添資料3「将来都市像（キャッチフレーズ）案の投票結果」に基づき説明。)
会長	・様々な意見聴取、リファインされこのようなキャッチフレーズになった。これを採択するかどうか皆さまのご意見を賜りたい。これについてご意見をお願いしたい。
事務局	・事前にいただいているご意見があるのでご紹介する。 ・キャッチフレーズの決定おめでとうございます。候補はどれも高浜らしさ、人のつながりが表現されているキャッチフレーズばかりで、決定されたキャッチフレーズの発表が楽しみ。色々な年代の方々が一つのテーマに向かってひとつになれる機会が素敵だった。
委員	・「幸せ」は漢字でなく平仮名にしてはどうか。
委員	・肝心の計画にこのキャッチフレーズがどう影響するのかが分からない。キャッチフレーズに拘束された計画になってもおかしいし、計画だけが独り歩きするのもおかしいと思っており、これをどうリンクしていきたいのか、お聞きしたい。
事務局	・総合計画の作り方としてボトムアップという考え方もあったが、今回は10年後にどんなまちになっていきたいのか、みんなで想像し、そのまちに近づけていくために5年後、3年後に何をやろうか、バックキャストの考え方で作っていくことでスタートし、理想とするまちの姿を描いたところである。

	<ul style="list-style-type: none"> これから中身を作っていくことになる。いろいろなことを包括できるキャッチフレーズになっている。個別の取り組みがこのキャッチフレーズにつながっているかは、我々もしっかりと確認して決めていきたい。その際にはまた、委員からもご意見を賜りたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 「人と想いがつなぐつながる」は分かるが、「幸せ」という言葉は漠然としている。何をもちて幸せと解釈するものか、その点が不明確に思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 仰るとおり幸せは人それぞれに違うと思う。何の幸せかを決めてしまうと、それ以上のことができなくなってしまう。これまで頑張ってきてくれた人の想いや、人たちが、これからの未来につなげていく、つながっていくことで、多種多様な人たちがそれぞれの幸せを感じられる。そんなまちになってほしいという願いが、キャッチフレーズとして表現されているということもあり、あえて抽象的になっている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 「つなぐつながる」を「つなぐつなげる」にすると、大分そこに意思が入るような気持ちができる。ほんの一字違いだけだがいかがか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 市民会議からの経過を見てきて、事務局から説明があったとおり、今までの流れで「つなぐつながる」がずっとトップできていた。それがあって、今のキャッチフレーズになっている。「幸せ」が入っていることも1番だった。皆さんの想いも入っているのだから、それを削らないように、投票してくれた人や中学生たちの皆さんの想いを乗せた言葉という印象がある。実は「幸せ」に関しては「大家族」という言葉もあるし、不要ではないかという意見も少し出たが、最後の多数決で選ばれたのがこのキャッチフレーズだった。
会長	<ul style="list-style-type: none"> それでは、キャッチフレーズの案に対して、「幸せ」を平仮名にするということについてはいかがでしょうか。
	(意見なし)
会長	<ul style="list-style-type: none"> 事務局から意見をお願いしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> この場で意見を頂きたい。もう一度市民会議にフィードバックして最終決定することも可能。
会長	<ul style="list-style-type: none"> 「人と想いがつなぐつながる」ことは見事に「幸せ」につながっていくと感心した。「幸せ」は実は「仕合わせ」という言葉も使う。つまり組み合わせをいう。「人と想いがつなぐつながる」というのは組み合わせさっている。人と人が組み合す、コミュニケーションができ、ネットワークができ、そのことが「幸せ」にもなると思った。掛詞的に平仮名にしても構わないが、実は裏にはこんな意味があるとも解釈できる。つまり、つなぐつながることが幸せなんだという理解ができると思い、見事だと感心した。私は平仮名であろうが漢字であろうが、大義は損ねてないと思っているので、市民会議の判断に委ねたい。ここは決定機関でもあるので、判断を市民会議に委ねる形によろしいか。
	(異議なし)

会長	<ul style="list-style-type: none"> ・つなぐつながることが幸せ。物質的な幸せを迫及しているわけではなくて、人と人とが上手く組み合わせるそれが幸せ。そういう意味では平仮名の方がいいかもしれない。 ・異論がなければ平仮名にさせてもらえないかと市民会議に提案してもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・会長が言われた幸せの別の意味も説明していきたい。

3) 第7次高浜市総合計画の構成(案)について	
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは続きまして「第7次高浜市総合計画の構成(案)」に入らせていただきます。事務局より説明をお願いしたい。
事務局	(資料3「第6次高浜市総合計画の構成」に基づき説明。)
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・大きく前と違っているのは、計画策定の背景の社会情勢が大分変わっているということが一つ目。二つ目に国際連合が言っているSDGsをここにも入れていくということ。行政機関としての当然の姿勢であろうかと思う。人口の見通し、土地利用構想、地域展望は時代の変化に対応した微修正になるだろうということ。大幅な土地利用の変更は開発の時代ではないから、今の時代にあまり考えられない。さらに基本計画分野については、基本的には第6次の基本計画のフレームを踏襲しながら、行政のなすべきことと、住民あるいは地域ができることを中に書きこんでいきたいと、ただ、全て書き込めるかどうか作業しながらやっていかなければならない。そこはこれからの工夫次第である。しかしながら、第6章のところ、市民、地域ができることとして絞りだし、住民にわかるようエッセンスを取り出し、別冊にすることも考えているという説明であった。 ・行財政運営の在り方については、今までのような行政改革とは健全な財政運営が当たり前のものになっているが、ここで特記されているのは、公共施設の在り方の検討である。ここは非常に重要な箇所ではないかと聞いている。というのは、国においても地方公共団体においてもそうだが、道路、橋などの基礎的なインフラストラクチャーはもとより、今後20年か30年以内に全体で6割から5割5分は修繕をしなければもう持ちこたえられないという答えはでており、公共建造物(公共施設)についても全部見直していかなければならない。それを全部新設もしくは改築することは不可能で、これは国家財政からみても当然のことだと思う。そうすると何を残す、何を修繕していくか、場合によっては何かを諦めるということも考えなければならぬ。詳しくは書けないと思うが、そういうことがここに出てくると思う。公共施設の総合的な管理計画を作らなければいけないので、その方向性だけは確認しておかなければならない。何もかも今までのように新設、増築、修繕ですぐ済むということは一切ないと、そういう時代はもう終わるということは覚悟しないといけないということは聞いている。 ・総合計画を補完する個別計画というのは、今までこれは言っていなかったが、実は総合計画はもう地方自治法第二条第四項に基づく地方公共団体の義務的位置から落ちている。任意計画になっているが、実は高浜市においては

	<p>高浜市独自の自治体系の中で最高上位計画に位置付けられている。この計画の下にどんな中位計画があるのか、その中位計画の下にどんな下位計画があるのか、計画の体系を示すということは、これは非常によいことだと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世間では一般的に国が法律で作りなさいと言っている計画が上位だと思う勘違いがあるが、そんなことはない。西暦で申すと 2000 年 4 月以降は国家と市町村は対等である。指揮命令関係にはたっていない。総合計画は高浜市にとって最高上位計画ですと高浜市が決めたならそれが最高上位計画になる。国が定める都市計画や様々な法定計画はそれを支える中位計画の位置にあります。法定計画は国によって定めなければならないとされているだけで、計画秩序でいえば最高上位計画である総合計画を支えるという位置にある。自治体として高浜市はそのような計画秩序を示すということ。 ・これについて、皆さまそれぞれのご抱負、これを計画でやってほしいとか、こういうことに変えてはどうかとか、様々なご意見ご所見あろうと思う。ここは全員のご発言をいただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この計画に若干の違和感がある。 ・何故かというところ、第 7 次総合計画には第 6 次総合計画に全く関連性がないかどうか、関連性があると思う。そうすると第 6 次総合計画のなかで上手くいったこと、あるいはミスったこと何か問題点があるならば、その結果としてどういうところに問題があったのかということを出すべきだろうと思う。それが一つ。 ・それから二つ目に、SDG s と出てくるわけだが、あまりに突然出てきて違和感を覚える。これは第 4 章の基本目標、キャッチフレーズと出ているわけだが、そこにこの SDG s のどこに該当するのか、どういうものとリンクするのかを、そこで出すべきであって、第 2 章に突然だとしてもこれを読んだ人たちは引いてしまうのではないか。 ・市民・地域ができることはいくつかあると思いますが、ここまで皆さんが読んでくれるかどうか、皆さんが興味をもつような、しっかりとここまで皆さんを連れてくようなことが果たしてできるかどうか。 ・第 5 章の雇用の創出や出生率の向上はここに置いて本当に高浜市の政策としてやっていけるかどうか。少し違うのではないか。あまりにも高浜市としてやれないこと、やりにくいようなこと、そこまで背伸びして出す必要はないのではないか。自分の背の高さに準じた計画を立てる。目標はもう少し上でもいいとは思いますが、ここで市の目的とは何なのかというのは先ほど、ここに出てきたから、それを達成するために目標があってその後に戦略があるわけだが、そういう意味では上手くできていると思うが、第 6 次総合計画の答えをどんなふうにも今後活用していくのか、それを第 7 次にどういう風に盛り込むのか。SDG s はこここの場所に突然出てきていいものなのか。第 5 章では雇用の創出や出生率の向上というのは本当に市が計画に入れていってできるのかどうか。市民・地域ができることって皆さんに浸透するまで大変だろうなという気がする。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・第 6 次、第 7 次総合計画、この計画に沿って市の仕事が決まってくるわけですから、あまり細かく、多数を決めてしまって今の市役所の人員でこれがカ

	<p>バーできるのかと。少し不安を持っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2章SDGsというのはあまり私も詳しく知らないが、このところラジオなどで取り上げられている。今後とも日本だけでなく世界もSDGsがシンクロしてくると思うので、ある程度この位置で掲げておいてもいいのではないかと思う。 ・基本目標を決めてその下にくる細かな目標がどういう目標になってくるのか、それによって行政の今の人員である程度対応しきれるのかどうか、細かいところまで決めることができれば一番いいとは思いますが、それが対応可能かどうかということも考えて決めていったほうがいいのではないかと。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・施策動向調査の65、66ページに今後の重要施策というので市全体として、十数項目挙がっているが、これはアンケートをとってできたものなので、こういうのは非常に大事なものだと思う。もう一度これを見直させていただいた。それによると、防災防犯のほうが充実しているとか、医療体制が充実しているとか、総合計画の構成でいうと、基本目標の下位の目標というところにあたるような気がする。こういうものが十分入るような配慮をしてほしい。そうすると先ほど言われたように、第6次の結果がどういうものかというのをしっかり見ていただいて、表だけだと良くなっているものなのか悪くなったものなのか、中々わからない。このあたりのことが、はっきり結果としてこれは重要だというのを拾い上げてもらえるとう有難い。 ・その中にもいくつか、雇用という言葉も出ていた。第5章の雇用の創出は違和感がある。市でうまくやっているといるものなのか、我々にも分かりやすいような形で示してもらえると有難い。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私が思う幸せは、「心と身体が健康であること」「良い仲間や家族に囲まれていること」「仕事やいきがいをもっていること」「お金に困っていないこと」これ以上考えると欲だと思い、最低この四つがないと幸せとは思えないのではないかと計画を見ていて思った。 ・今後の取り組みのなかに、加えていただければと思うことだが、ゴミ袋が途中から有料化になったことが、この10年のなかで変わってきたことであるが、子どもがいる方は紙おむつが出る、ペットを飼っていればペットシート、お年寄りの介護をしていればオムツが出る。ゴミ袋が結構量が入るので重いと思う。知らずに持つと体を痛める可能性があるのでは、色を変えるとか、多少金額が上がってもしてはどうか。これからそういう仕事を女性もやるようになってくるのではないかと、男性の仕事と割り切れないのではないかと思うし、他にもあると思う。それもSDGsの1つになるのかと思う。 ・オリンピックを見ていて、ふるさとを応援する気持ち、地元の子が出場すると応援したくなる。高浜も色々なところからきている人が多いと思うので、今後県人会みたいなものができて、相談しあったり、助け合ったり、イベントも今はできないけども将来的には、高浜にいながら他所のふるさとの味や雰囲気を楽しむようなことにも繋がるのではないかとと思う。 ・外国人が高浜は多いという理由の一つに物価の面で暮らしやすいからと思うが、おそらくお年寄りにもそういうことが当てはまってくると思う。年金暮らしでも暮らしやすいまち、物価のやすいまち、と考えると、福祉の面で、

	<p>お年寄りが他所の市にお世話になることなく高浜で最後までお世話になれるような充実した仕組みができるといい。イメージ的にお年寄りが多いと、ゆったりして、平和な、穏やかなイメージがあるのでいい風にまちづくりができるとういと思う。</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> 前半4人が終わったので、事務局より意見ををお願いしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ご意見有難うございます。第6次の良かったところ悪かったところそういった反省も活かして第7次につなげていくべきでないかという意見はまさにそのとおりに思う。 施策動向調査のなかでも少しそういったところは触れているが、まだ第6次の計画は動いているところである。第7次の個別の計画、取り組みを作っていくなかで、第6次でやってきたことも踏まえて第7次どのようにやっていこうかと考えていく。それを如何に委員の皆さま、市民の皆さまに見てもらえるように、分かりやすく出せるかどうかは今後検討課題かと思っているが、しっかりとそういったところも加味していきたい。 SDGsの配置は考えました。最初はもう少し下のレベルに置いていたましたが、世界的な流れなので、これがいきなり出てきて分かりづらいかもしいないが、あえて冒頭にもってきて、今の世の中の世界的な取り組みとして動いているというのをお示ししておいたらどうかと考えた。あまり細かくは書かないが、概要を書くなかで、市の総合計画の様々な取り組みがどこに当てはまっているのか、繋がっていることを市民の方にも知っていただけるといいと思いこの場所に配置した。 市民・地域できることは、ここで書くだけでやってくれるとは思っていない。実際一緒になって動いて計画の意味がでてくると思うので、ここに書くだけでなく、これをどうやって一緒にやっていってもらえるかというところの方が大切。別冊のようなものを作って分かりやすくお示しをして一緒にやっていけるような形で進めていきたいと現在は考えている。 今は総合戦略を総合計画とは別に1冊作成している。中身を見ると総合計画にあるような取り組みで、雇用の創出、出生率の向上につながるような取り組みを抜き出したものが書いてある。実際雇用でいうと、企業誘致や、そういったことをすると雇用の場ができるのでないかとか、出生率の向上であれば、子育てしやすい環境を作っていくことで子供を産み育ててみたいと思ってもらえる雰囲気を作っていくことでつなげていく。こういったことを少し抜き出していければと考えている。 「心と身体の健康」も幸せにつながると思うのでそういったようなところも計画に落とし込んでいけたらと思う。そのあたりも加味したうえで柱建てをしていければと思っている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 第5章に地方創生戦略が書いてあるが、国が示している1億総活躍社会というところで、雇用の創出や出生率を向上させることを必須条件とされている。 実際には別冊で持っているが、1つの軸として総合計画のなかに一緒にいれていく、産業工業の部分や企業誘致、産業支援、そういった部分をやっていくので、そのあたりも含めてやっていくべきだということなのでここに入れて

	<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsについては、カーボンニュートラルの達成、第4次産業革命も叫ばれているので、国際社会のことであっても日本もそこに向かって進んでいこうと国が掲げている以上は行政としてはきっちりと位置づけだけはしていきたいということでここに入れているのでご理解をお願いしたい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・今出たお話しのなかで、出生率だとか、雇用までは高浜市には重すぎるのではというのは、私も全くそのとおりにかなと思って聞いていたが、地方創生総合戦略のなかで、そのことについてきちっと述べよ、目標を掲げよと国の方から依頼してきている。それについての回答というか沿った計画を全市町村が作らされているで、それをここに掲げておこうということである。ですので、決して無理をしたものは掲げないはず。ただ項目として出生率向上のためにこう頑張ります、雇用増加のためにこう頑張りますということは書かなければいけない。義務的に配慮されているので、ここはご理解頂きたい。 ・それから、沢山仕事が多すぎないかと逆にご配慮いただいていると私は思ったのだが、実は仕事が多すぎるわけではなく、現実にはこの人数でやっている。ただ、私は個人的には高浜市は職員数が少なすぎると思っている。この職員数でこれだけの仕事の量はもう負担がきつすぎるだろう。全国平均から見ても職員数が少なすぎると私は判定する。なので、今仰ったことは今後の人材補強のための指針として一応伝えておいていただきたい。仕事が多すぎないかと思うのは私も一緒。有難うございます。 ・それから、第6次のデータをどこに盛り込むのかというお問い合わせがありましたが、これは新計画のなかの書きぶりに反映すべき。現状あるいは課題のところでは前総合計画においての目標達成はこの程度であった、従ってこれら達成していない目標を計画にもう一度積み上げていきますという記述を書くべき。それが今までの計画には無かったのではないかなというご指摘であったと私は思う。そうすると計画作っただけで終わるのでなく目標があり、目標ができた、できていないが次の計画に反映される。そういう計画にしましょう。必ず現状と課題と課題解決のための次の施策の目標とかいう三段論法でできているように。これは単なる作文ではないということ。現状を分析するにあたって第6次総合計画と対照するということが必須課題になってきた。 ・次のグループに移りたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料3にあるように第6次総合計画と第7次総合計画の案はだいぶ違って、今までであれば第6次の計画を踏襲すればいい時代だったのに凄いこの10年で変わったのだと実感しながら思った。 ・SDGsに関しても安城市でも健幸＝SDGs課ができたぐらいで、世界的には進んでいて日本は少し遅れているということもあるし、全国的に見ると5年も6年も前から取り組んでいる自治体もあり、既に結果がでている自治体もあるので取り組んでいくべき内容かなと思っていて。ここに置いたというのも考えられてお書かれたのだと察しているところ。 ・第6次の数字的な検証も必要かなと私ももちろん感じているが、今第7次のキャッチフレーズを決める市民会議では外国籍の方、中学生の方、お子さん

	<p>を連れて毎回出てくれる方もいて、そうすると数字では測れない第6次の成果というのは第7次に向けて出ているのかなと体感できたので、そこは素晴らしい流れとして引き継いでいければいいと思っている。そのなかで後半の部分では市民ができることとか、地域ができることを考えるとあるが、やはりまちづくりは自分事にするのが大事だと思っており、今まで総合計画は行政がやるものだと思っていたが、この第7次を見ると自分事にするようなきっかけづくりというのが結構あるかと思うので、これが本当に市民の方が自分事のように行政と一緒に取り組んだら凄く面白い計画ができるのではないかと考えている。あくまで計画なので今後10年それを市民の方と行政がどう進めていくかというのが大事かと思いますので、個人的に難しい内容も多いですが、これができるならワクワクするというのが感想。</p>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsについては中川会長も仰られ、他の委員からも話があったように大事な位置づけだということを感じました。ただ、そういうお話を聞いたうえで、お話しをしたいと思います、もちろん第6次までに様々な施策が行われてきて市民はじめ行政も真剣になって取り組んできたその結果、SDGsにかかわることをいくつも取り組んできたことがあるのではないかと思います。そういったものをしっかりと評価したうえでこれから何をやっていく必要があるのかということを変更して位置付けていく必要があると思う。そして仕事としては大きなことになってくるのですが、行政だけでやらずに関係機関とか関係団体、そういったところが、何ができるか役割分担をし、自分のところができるところを、これまでもやってきたと思うが、それをさらに押し進めていくということが今後も必要なのかと。これが持続可能な社会をつくっていくことになるのではないかと思います。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これができたら面白そうだと思っている。 ・雇用に関しては少子高齢化で高齢者の雇用とか、外国人の雇用とかいろいろなことがでてきている。ダブルワーク、働き方改革、いろんなことがもう出ているので事務局から企業誘致とありましたが、そういった大きなことではなくても、さきほどキャッチフレーズに「つなぐつながる」と出ているのでみんなでつながりながらそういったものを創り出していくというのが必要な時代だと私は思っている。 ・出生率の向上もお示しいただいているものを見ると高浜市は少しずつ増えているということを知っていて、人口が増えることによって、税収も増え、メリットも多くあると思う。定住の意欲が向上するというのももちろんあり、我々市民の生活にもつながってくるので、出生率が増えれば、子どもが増える、子どもがよい教育を受ける、未来の市を担う人材になっていくということが第7次だけではない第8次9次と進んでいくときに子どもたちが高浜を担う素晴らしいひとたちになっていくわけなので、ここは、今は難しいと言わずに取り組まなければならないと、絶対あきらめてはいけないところだと私は思っている。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画というのは民間企業にとってどういう位置づけかという、やはり経営計画のようなものに位置づけされると思う。経営計画の在り方によって株価に影響する、従業員が働きたいと思うかどうかというところに影響して

	<p>いく。適切でないかもしれないが、そういった角度から今回のこの案を見させてもらった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代が10年前と今は全く違っており、オリンピックが開催され、オリンピックが「多様性と調和」というテーマでやられているわけだが、多様性と調和は何なのか、どこからその言葉が出てきたのか思っている方もいると思う。ジェンダーとは何か、色々な横文字が並ぶなかで中々テレビを見ても分からないことが多いと、ましてSDGsとは何なのだということが、実際現状あると思う。民間企業においてもSDGsは当たり前に行っていかなければならない、むしろ零細企業でもそういったことに対してどう取り組んでいくかということを実践しかけているのが実態でございます。掲げられている17個の目標を達成したときには必ず世界に幸せがあるだろうことを国連が提唱しているわけで、今回これを2番目にもってきたということはある意味、私は評価をさせていただきたい。 ・計画を立てるうえで冠は必要だと思う。もちろん高浜市独自の計画というのは非常に大事だと思うが、やはり世界であり、日本であり、地域であり、というところが今後10年どういうところに向かっていくか、30年までがSDGsの目標になっていると思うので、まさに今から作成する第7次総合計画にちょうど合致するタイミングになる。ちょうど10年後に当たり前のように皆がSDGsの目標を達成できたのだろうかという話をきっとしているのではないかと。是非これに関しては取り組んでいただきたい。 ・あわせて第5章の創生戦略も重要な位置づけかなと思っている。やはり今後10年において我々が乗り越えていかないといけない、例えば経営者が高齢化して事業所をどうするのか、後継者不足で廃業される方が沢山みえるなかで高浜市において起業される方、そして企業誘致含め、商工業者が発達するということがそこで雇用が発生する。そこで人々が定着し、出生につながっていく、この循環が高浜市で仕事をしていく価値や魅力みたいなものをしっかりと伝えていくことで、高浜市独自の戦略みたいなものを明確化していくことで企業がもっと活躍していく環境ができるのではないかと思っている。 ・テーマが「幸せ」であり、決してそこには外れていない計画ができるのではないかと思っており、期待しているので引き続きお願いしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・章立て7つというところで、これにはそれほど違和感はないが、章立てのタイトルを工夫しないと、いきなりSDGs、創生戦略が出てくるとなる。章立てのタイトルの付け方に工夫をした方がいいのではないかと。 ・基本的なところでいうと第3章基本構想のうちの2人口の見通し、3土地利用構想には第6次と大きな違いはないのだろうという先生のご指摘もありましたので、それはそれでそうなのだろうと思うが、4地域展望は真面目に考えないといけないのではないかと気がする。 ・今、まちづくり協議会で地域計画を一生懸命作っているが、市として地域展望をどうしていくかというのがないと、まちづくり協議会任せになり、それはまずいという気がしていて、市としてどの学区はどうするというのがおそらく出てくると思っている。それが、まちづくり協議会が作る地域計画とうまく合っていないと市の独りよがりになってしまうので、そこは注意が必要

	<p>だと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で見ると基本計画のところが見えてないので、章立て自体に異論はないが、基本計画がどう変わっていくかに興味があり、そのあたりが出てくると第7次の計画が凄く綺麗に見えるのかなという感じを受けた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほど他の委員から第6次の評価について、先ほど先生から書きぶりの方に入れるということですから、それでいいと思う。 ・まず計画の背景というのが最初にあるわけだが、今まで第6次のときにもあったが、きちっと何故それをやるのかをPDCAを回してやっているのかという疑問がいつもあった。今回はじめてバックデータとかアンケート結果をきちっと取って回していくということをもってもらったわけですから、それによって何故その施策をやっていくのかがはっきりしていくのではないか思い、安心している。 ・創生戦略についてはあまり今までそれに触れてくることがなかったので、これについては私自身も改めて勉強したい。 ・第6章計画の実現に向けてでは、市民ができること、それから地域ができることで、地域の方は地域が作っていくからまだ分かるのですが、市民にやれというのは、総合計画は議会の議決事項になるはずですから、議会でも決定されるので、そうすると冊子になったもので、市民がこうやってやりなさいということが書かれているのが出てくるのかなど。そうなるのかなどかなり、あなたたちはこういう議論をして決めたのだろうと色々言われると辛いなという気がした。 ・つながりつながるという言葉があった。我々は地域の組織としても、どうやってつなげていけばいいのかということが、例えば今地域でも中々行事をしても外国人の方は出てみえない。それをどういう仕掛けをしていけば一緒になれるのか、彼らも一緒に入りたいと言っているのだけれども、きっかけをどうやって作っていったらいいのか分からないので、教えていただいて上手くつないでいければいいという気がする。 ・公共施設の在り方のところで、道路、橋、建物そういうものが出てくる。今まで色々やられてきたと思うが、それが最近あまり表に出なくなってしまったのか、そのあたりをもう一度きっちり整理していただいて、もう一つ追加するとすれば下水の関係も長期計画に基づいて行われていると思うが、現状どこまでいってどうなのかということも中々表に出ていないのでそのあたりも第7次ははっきりと盛り込んでいければいいのではないかと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重なご意見ありがとうございます。 ・第7次は身の丈に合った計画にしていこうというのは大前提であるが、皆さん意外に思われるかもしれないが、高浜市の高齢化率は意外に低く、長久手市、みよし市に続いて県内で3番目に若いまちである。ということは子育て世代に選択されているまちになる可能性が非常に高いと踏んでおり、今私も何をやらなければならないのかというのは、先ほど難しいかもしれないかと、確かにハードルは高いのですが、企業誘致をして財政力を高めて、その財源を活かして待機児童対策に充てていくということ。 ・それからもう1点、高浜市は市街化区域の率が高く、名古屋市、大治町に次

	<p>いで県内で3番目に高いです。ということは調整区域が少ないので、もうこれ以上人口は増えないかなとある時期私は思っていました、今皆さんが関心のある土地があると思います。その活用。それと旧病院の跡地の活用。色々ありますので、そういったところで人口増に向けた取り組みも第7次のところでは考えていく必要があるのかなと思う。それをやって、税収増を図っていくということが第7次の肝になっていくと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の関係は粛々と進めている。下水の関係もようやく吉浜地区に入った。まだ15, 16年はかかるかもわかりませんが、しっかりとやっていくので宜しくお願いしたい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・行政側から補足はあるか。なければ私から委員としての発言に入りたい。
	(意見なし)
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・先般データを見させてもらったが、高浜市は消防団への職員の加入数が大きい。職員全体の3、4割が入っていると聞いた。職員の住民自治への協力度が高いまち。そういうことも、もっと総合計画に反映させた方がいいのではないか。 ・基本構想で書くべきか、基本計画の条文で書くべきか分かりませんが、住民自治と団体自治の密接な関係をもっと書くべき。住民自治がしっかりしてればしているほど、未来への投資に団体自治の資源を振り向けることができる。住民自治が弱れば弱るほど現在の投資に傾かざるを得ない。この関係を示してはどうか。であるからこの計画では地域でやってもらいたいこと、住民にお願いしたいことが出てくる。これはしなければならなくて、できること、もしくは可能ならばしてほしいことであって、別冊になったからこれを住民がしなければならぬという、べからず集にはならないとは思っているし、そのようにお願いしたい。しかし、それは当然のことでの自治体でも当たり前のこと。住民が防犯にも防災にも協力しない、地域福祉にも一切何も関わらないまちは、膨大なコストがかかっているわけで、当然の話。それをなるべく見えるようにしようということ。従って「ねばならない」ではなくて住民が本当の意味で高浜大好きの定着定住型市民になってくれればもっと高浜のエネルギーを子どもたち、あるいは孫たちの未来に投資できるということと、除却せねばならない施設も除却することなく持ちこたえることもできるとストーリーができる。そのことを描いてはどうか。 ・先ほど、素敵な言葉を他の委員が仰ったが、まちづくりは他人事でなく自分事だということをこの計画ではストーリーとして描くなかでその理念を出してはどうか。つまり、まちづくりは単にハードな話ばかりでなく、仕組み、ルール、将来残す伝統づくりでもあるわけでそれは行政だけの力では無理である。延いては人づくりは、もっと住民自身がお互いに関わりあっていかないとできない。従って「人と想いが つなぐつながる 幸せなまち 大家族たかはま」というのはばっちり合ってびっくりした。「つなぐつながる」というのはコミュニケーションのことであり、その集合体であるコミュニティを作っていくということだから、高浜における総合計画の基本的な足掛かりは地域にあるということをはっきりと示した方がいい。地域社会、地域コミュニティを徹底的に重視するという施策を示してはどうか。そのため

にも個人でできること、地域でできること、行政がすべきこと、場合によっては行政と地域が協働で解決していったら効果が上がること、各部局一斉にこれを考えてくださいとお願いしてほしい。住民の協力なくてもやっつけられるという部署はゼロ。秘書課から人事課に至るまで住民の参画と協働で現在やっている仕事は見直してほしい。秘書課は単に市長副市長対策課ではない。議会事務局もそう。市議会議員対策室ではない。住民と議会とをつなぐための仕事をもっと考えないといけない。そのための協働事業を考えていかなければならない。そういう斬新な総合計画にしてもらいたい。

- 出生率や雇用に関しては地域創生戦略のなかで政策を出せと国が言っているから皆苦しみながらやっているのだが、実は国の責任というのは大きいのは事実。例えばご承知のことと思うが、非正規労働者がかなり増えている。全雇用のうち4割5分まで非正規が占めてきている。これは小泉竹中路線のときにできた行政改革で起こっているわけだが、この結果国民消費が落ちてきているのは、経済学者の世界では当たり前の話。そうすると雇用法制を改正してもらわないと結婚もしない子供も産まないという世代が増えていくのは仕方ないではありませんかという批判はある。だからといって、国の責任、国の責任と言っていていいのでしょうかという話もある。確かに地方創生戦略は自民党の石破さんが総務大臣のときに作ってくれと言った計画なので地方公共団体にとってみれば天からふってきた災難みたいな計画ですが、だからといってできないことは書いていない。できる最低限のことを書いている。それと総合計画と調整してできないことは書かない、総合計画と調和していることを書くということを皆がやっているはず。だから嘘は書いていない。そんななかで私はいつも言うが、人口が減りつつある、じりじり減って高齢化も土壇場に追いやられつつある天下の国際都市神戸市とその隣で人口がどんどん増えていっている明石市、同じ自治体なのに何故片方は若者、子育ての人がどんどん入ってくるのか、何故もう片方は高齢化都市になっていくのか、はっきりとした都市間競争が答えを出している。ですから自治体の政策の打ち方によっては若者を引っ張り出し、子どもを産み育てることは可能だということは立証されている。ただ、私個人としては、そういう厳しい競争を隣同士で奪い合いするような競争を強制するなど言いたい。むしろもっと若者が結婚できて、子どもも産み育てて、リスクを伴わずに子育てできるような社会に切り替えてほしいと思っている。

- 嘗ては一億総中流国家と言われた国はもう既に壊れている。中流の人たちは消えていっている。中流下層階級になっているし、中流階級の次の世代はどんどん下層階級に転落してくるらしい予想が出ている。そうなるこの国のGDPの構成は輸出入で稼ぐしかなくなる。あと、皆が肩入れしているのは政府の公共投資です。政府公共投資はもうこれ以上増やせない。今年の財政支出はご覧になられたか。コロナとオリンピックでもう8兆円ぐらい使っている。それを全部が国債発行である。国債発行額は例年に比べ2倍ぐらいに跳ね上がっている。とんでもないことになっているが、何とか自治体の力でそういう地域社会を守っていききたい、市民の生活を守っていききたい。そういう危機意識をもった計画にしないか。私が言いたいのは何でもかんでも国の

	責任にしていたら気楽だが、それを言っていたら地方自治にならない。そこは住民と一緒に支えていく、守っていくという精神で盛り込んでいきませんかということ。そういう意味で私は基本構想かどこかで住民自治と団体自治をきっちりと説明する箇所をもってほしいと思っている。
会長	・事務局から何かあればお願いしたい。
事務局	・沢山のご意見を有難うございました。本日頂いた意見はなるべく計画のなかに落とし込んでいけたらと思っている。特に住民自治のところは今お話があったが、高浜の特徴としても位置付けていけるかなと思っている。しっかりやっていきたいと思っているので宜しくお願いしたい。

5. その他	
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・本日皆さまから頂いた意見は大変貴重で、しかもシャープでよく核心を得たご発言が多かったと思っている。有難うございます。 ・以上ですべての議事は終了となりますが、その他に入る。 ・事務局から発言をお願いしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・2点お願いしたい。1点目は、次回第4回の審議会の日程は、少し先になる。10月27日（水）19時からで実施させていただきたい。また、あらかじめ事務局より通知をさせていただくのでご予定をお願いしたい。 ・2点目は、本日の議事録については、まとめり次第、委員のみなさまへお送りして確認いただき、書面で了解を得たうえで公開させていただくのでご了承願う。
会長	・これをもって、第3回高浜市総合計画審議会を終了する。